



重要なお知らせ

今年度は、コロナウイルス感染症拡大による休業期間が長く、授業時間を確保する必要から、夏季休業期間が短縮されます。また感染防止の観点からも、**夏季登校学習会と理数科・理数クラスの宿泊学習会については中止**となります。ご連絡が遅くなり、申し訳ございませんが、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

8月の進路関係行事

- 1(土) 全統共テ③
- 2(日) 夏季課外③Ⅰ期
[～3(月)]
三者懇談期間③
[～7(金)]
- 4(火) 夏季課外③Ⅱ期
[～5(水)]
- 6(木) 夏季課外③Ⅲ期
[～7(金)]
- 8(土) 小論文課外③
大学別模試③
[～9(日)]
- 13(木) 諸活動休止期間
[～16(日)]
- 18(火) 始業式スタサポ①②
校内実力試験③
- 19(水) スタサポ①②
校内実力試験③
- 21(金) 進路希望調査③
- 22(土) 東大京大模試①
全統模試②
- 29(土) 土曜課外①②
土曜講座①
学習会②
理社課外③
- 30(日) 小論文課外③

※○数字は学年を示します

<大学入試情報：令和3年度大学入学者選抜要項>

6月19日(金)に文部科学省から「令和3年度大学入学者選抜要項」が発表されました。現3年生が受験することになる令和3年度の大学入試については、昨年度から様々な議論がありました。中でも英語の外部検定試験の成績利用と大学入学共通テストの国語と数学における記述式の出題見送りは大きく報道されたため、皆さんの記憶にも新しいところだと思います。以下、現時点で判明していることについてまとめておきますので、ご確認ください。

総合型選抜の出願時期変更について

出願 9月1日⇒**9月15日に後ろ倒し**に。

※上記以外の入試スケジュールには大きな変更はない模様。

令和3年度の大学入学共通テストについて

実施日・実施回数・会場の変更

- (i) 令和3年1月16日、17日(全国47都道府県)
- (ii) 令和3年1月30日、31日(全国47都道府県)
※(i)の追試、または**学業の遅れを理由にした現役生対象**の日程
- (iii) 令和3年2月13日、14日
※(ii)の追試験として実施する特例追試

★(i)か(ii)かの選択は学校単位ではなく個人で行うこととなりますが、(ii)を選択した場合、**出願検討の時間が取れない、個別試験までの日数が短くなる**といったデメリットが考えられます。また、(iii)になった場合は、共通テスト利用の特別選抜や私大入試のスケジュールに影響するので、出願の際には各大学の扱いに注意する必要があります。

個別試験について

コロナウイルスに感染した受験生の受験機会確保のため

(ア) 追試験の設定 or (イ) 追加受験料なしで別日程への振替の措置を求める

★(イ)は、ほとんどの国公立大は前期、中期、後期のうち2つの日程しか設定されていないため、現実的には実施可能性が低いと思われます。

出題範囲について

- ・大学入学共通テストの科目に関し、**高3で履修することの多い地歴・公民、理科の2科目指定を1科目に減じることや、他の科目への変更**を認めるなどの配慮を行うよう努める
- ・個別試験についても、**高3で履修することの多い科目は、受験生が選択可能にする、発展的な内容は出題しない、出題しても設問中に補足事項を記載する**などの工夫を行うものとする(しかし国立大学は配慮しない方針だという報道も…)

以上のような発表を踏まえ、**各大学は7月31日までに、試験要項を公表すること**になっています。不確定要素が多いため、特に3年生は、**今後の大学の発表には十分注意**してほしいと思います。

<7/11(土)第3学年保護者会を終えて…>

7月11日(土)に、YCC県民文化ホールと本校視聴覚教室をそれぞれ会場に、普通科と理数科の「**第3学年保護者会**」が行われました。保護者の皆様には、ご多忙の中、お越しいただきましてありがとうございました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、日程や会場の変更でご迷惑をおかけし、また当日は各家庭1名のみという入場制限や身体的距離の確保などにもご協力いただきまして、ありがとうございました。おかげで、両会場ともにスムーズに会を運営することができました。

当日は、本校視聴覚教室にて、理数科の保護者の皆様を対象に、理数科主任(2年5組担任)・堀内通之が、YCC県民文化ホールでは普通科の保護者の皆様を対象に、進路指導主事・角田恵一が、「昨年度の大学入試結果報告」、「来年度の入試情報」を踏まえた上で、現役合格を見据えた受験生の在り方などについてご説明させていただきました。初めての**大学入学共通テスト**の受験者となる現3年生は、**新入試の第一期生**となります。令和3年度の入試は名称の変更だけでなく、受験生を**多面的・総合的に評価する仕組み**に変わります。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、入試スケジュールや出題範囲などにも変更が生じる可能性があります。そのため、3年生の皆さんは、保護者の方々とともに、ぜひ**各大学が発表する入試情報等にアンテナを高くて、情報収集により一層努めて下さい**。そして納得のいく受験ができるように、家庭でよく話し合い、三者懇談等を通じて志望校検討をしっかりと行ってほしいと思います。

<進路を考えるヒント>



今回の進路を考えるヒントは、浦坂純子著「**なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのか**」(ちくまプリマー新書)を紹介します。初版は2009年ですので、ちょっと内容的に古いことは否めませんが、サブタイトルにある「**キャリアにつながる学び方**」という部分は、いつの時代にも当てはまる普遍的なことですので、高校生にとっては一読の価値があると思います。

令和元年度に実施された文部科学省の学校基本調査(確定値)によると、**大学・短大進学率は58.1%で過去最高**となったそうです。このように大学に行く人は増えていることは事実なのですが、では「なぜ大学は行ったほうがいいのでしょうか?」この本では、「教育経済学」と呼ばれる分野の二つの理論である「**人的資本論**」と「**シグナリング理論**」を基に説明されています。「人的資本」とは人が身に着けた知識・技能などのことです。大学に通うことで、人は「人的資本」が増大し、その分仕事に就いたときに高卒者よりも高いパフォーマンスを発揮できるだろうという考えが「人的資本論」です。大卒者は高卒者よりも高賃金が得られるというのは、この「人的資本論」に基づいているわけです。もう一つの「シグナリング理論」は大卒であるということは、その人がその大学の入試を突破できるだけの力を持っているという目印になるということです。1990年代にソニーをはじめ「**学歴不問の採用**」が流行しましたが、蓋を開けてみると、**内定をもらったのはほとんど有名大学出身者だった**そうです。こうした事実から、出身大学もシグナルとして精度が高いと筆者は述べています。本書では人的資本を増大することが見込め、シグナルとしても機能する**大学は、「将来働く上で有利な状況を作り出す」として**います。これだけを聞くと、「なんだ、結局そういうことか」と落胆してしまそうですが、筆者はさらに「**大学で学ぶことの意義とその学び方**」についても述べています。ここからが本当は大切なところですが、そこは本書を読む際のお楽しみとして取っておきましょう。私個人としては、**大学で学んだことがその後の自分の人生観に大きく影響している**と思っているので、**大学に行く価値は十分にある**と考えています。大学に入学したばかりのころ、周りの同級生や先輩を見て「**自分がいかにモノを知らず、狭い世界で生きてきたか**」を痛感し、何とか追いつこうと必死だったことを今でも懐かしく思い出します。先日、今春の卒業生に聞いた話では、「コロナ禍のためせっかく入学した大学に通えず、授業はオンラインのみで、バイトもサークル活動もない大学生活で、本当につまらない」と嘆いていました。大学で得られるモノは、学問だけではないんですね。**そこでどんなひとに出会うか、どんなことに出遭うか**といったすべてを含めて大学生活があるんですね。コロナ禍でそれが失われているとすれば本当に残念なことです。